



学校だより

青い鳥

平成29年度7月号
さいたま市立上落合小学校
平成29年7月3日作成さいたま市中央区上落合4-14-24 電話852-5381
<http://kamiochiai-e.saitama-city.ed.jp/> E-mail:kamiochiai-e@saitama-city.ed.jp

大人の道理と子どもの理屈

校長 藤澤 太郎

6月は、梅雨の合間を象徴する暑い日がありました。それにしても気候は順調に真夏に向かっていくようです。道端の立葵の赤や白やピンクがほぼてっぺんまで達していますから、今年少し気の早い夏が楽しめるのかと思います。各教室から夏向けのさわやかな歌声が響くようになりました。先月は運動会をはじめ子どもたちはよく頑張りました。

夏休みを前にすると、いい年をした大人でも何かワクワクした気分になります。それは、自身が子どもの時に充実したハッピーな夏休みを過ごしたからに違いないと推察されます。私は杉並の小学校に通っていましたが、夏休みは決まって母方の実家にGO!ということで、長野県北部の山村に2週間ほど行っていました。「あずさ号」で松本まで、そしてローカル線で北へと向かうのですが、当時はまだ蒸気機関車も普通に走っていた時代ですので、松本から先はほぼディーゼル機関車の客車でした。田舎に行くまでの道のりは半日ぐらいたったと思います。子ども心にはかなり長く感じました。今でも、ディーゼルエンジンの音を聞くと、とてもワクワクします。きっと、相当楽しい夏休みを過ごしたんだとしばし回想です。2週間はあっという間でした。水がきれいなこと。空気がおいしいこと。野菜は畑からとってきて食べる。スイカの甘さは本当に甘いんだということ。トマトはもはやフルーツであるということ。へびには近寄らないこと。オニヤンマやミヤマクワガタが普通にそこにいること。友だちは自分からつくること。楽しい遊びは自分たちで考えること。夜は布団をかけないととても寒いこと。など、、、きりがなし。

子どもというのは自分に対して実に都合がよくできていて、祖父母の自分への扱いにスタンスがとれて、自分の自由になる時間ができることが分かったと、あとは滞在残り日数との関係で瞬時に楽しい計画が頭の中に浮かびます。これは子どもの一つの才能なのだと思います。同じことが学習方面でできたらな～とも思いますが、今も昔もなかなかそうはいかないようですね。

さて、自分で散々遊んでおいて、東京に帰ってくると途端にグータラな夏休み後半となります。気持ちは田舎に置いてきて、田舎の生活観のまま暮らそうとしているわけです。子どもの理屈はこうです。「経験や体験したことの中から得たものは宝物！色々な考えをもちながら未だ成長過程にあるので、もう少し好きにさせてほしい。」ということです。これに対して大人の道理はどうでしょうか。「遊びたい気持ちは子どもと同じですが、やることをやってからね。」ということではないでしょうか。

現実的には、夏休みは計画しているときが一番楽しいということなのかもしれませんし、大人と子どもでは、一見、利害一致・意気投合しているようですが、互いの希望を言い出すと話がまとまらないことが多いのも事実です。夏休みは、本当はお父さんもお母さんも子どもと一緒に遊びたいんですよね。ですから、子どもは計画の段階で「やること（特に学習の計画）」を表明しておくことが大切であり礼儀だと考えます。学校では毎年同じことを言っています。それは、「計画をきちんと立てて、規則正しい生活をしましょう。」ということです。何だか最大公約数のような響きですが、加えて言うならば、長い休みにしかできないことも計画してほしいと個人的には思っています。どうか、素敵な時間をつくり出してほしいと思います。

(※夏休みの良いモデルが紹介できなくてすみません、、、)

毎日暑いですが、1学期ももう少しです。学期のまとめの時期になりますので、学習した内容を復習し、そして、夏の具体的な計画をしっかりと考えましょう。良い夏休みを！！

学校教育目標

あかるく

なかよく

たくましく